

リバーウォッチング



「リバーウォッチング in 安曇川」

チーム名：「リバーウォッチング in 安曇川」(6名)
活動場所：高島市安曇川町内、高島市立安曇小学校
代表者名：渡辺大記(人間文化学研究所)
関係団体：高島市立安曇小学校

「リバーウォッチング in 安曇川」とは、滋賀県高島市立安曇小学校が総合学習の一環として行っている活動のことです。これは、小学校の近くを流れる安曇川をフィールドに、自然環境や生物の観察を始め、地域の水利や地域文化について、総合的に学習しています。滋賀県立大学人間文化学部地域学研究室(代表：武邑尚彦教授)が、この活動に参加し始めて、今年で4年目を迎えました。この活動の特徴は、全長約60キロの安曇川を、河口から源流までを6分割し、小学校生6年をかけた踏破することです。その道中、川に入って魚を取り、生育環境を調べたり、地域の人々から地域の暮らしについての話を聴いたりしています。こうして、単なる「産学」に終始するのではなく、五感や身体全体を使って「地域に学ぶ」ことが大切なことだと考えています。

発信基地

発信基地 in 高島郡
チーム名：KIT(44名)
活動場所：高島郡(高島町・朽木村)
代表者名：池田製恵(人間文化学部)
関係団体：なし

本プロジェクトは学生が推進する地域貢献活動です。人間文化学部地域文化学科・生活文化学科の学生が琵琶湖をめぐる湖畔、里、山間などの地域を選び、学級の枠組みを越えてテーマごとにグループを作って調査をおこない、教員、大学院生、地域の方(村長、教育委員会の方など)とともに、現在この活動を元にして私達は地域の文化の紹介ビデオ・絵葉書・パンフレットなどを制作中です。

三津・海瀬

三津・海瀬町土地利用計画

チーム名：RE CULTIVATOR(6名)
活動場所：彦根市稲枝三津町・海瀬町、滋賀県立大学
代表者名：水野智博(環境科学部)
関係団体：三津海瀬土地利用委員会

これまでは、地元の人々の要望やその他の特性や文化などの豊かさについて議論し尽くすことで、地元の人々の交流を深めるとともに地域がどのようなインフラや文化などの特性を持っているかについてフィールド調査などを主に行いました。今後は調査を踏まえ、具体的な提案をすることで、地元の人々の意見を具現化していくことが目標です。農業を続けていくにあたり、維持管理システムの再構築、敷地内での循環を考慮に入れて、今後はデザインだけでなく他の学科などともつながりを持つことを望んでいます。

わっしょい湖東 わっしょい

チーム名：木匠塾(15名)
活動場所：滋賀県湖東地域
代表者名：深井奈緒子(人間文化学部)
関係団体：わっしょい湖東

私たちはこの湖東地域でワークショップやフィールドワーク、ものづくりを通じて、観光、そしてまちづくりに関わっています。本年度は特に私たちに住み手自身の視点を広め、この地のよいところを発見、再認識しようとしています。今後は実際にどのように活用するか、広めるのかという提案や、あったらいいなを形にしています。わっしょい湖東とTTPだけでなく、この湖東で頑張る地元の方々やNPOそして現代GPの皆でこの湖東地域を盛り上げたいですね。



部戸



しとんど「部戸のある家」の保存と活用

チーム名：日牟礼楽座(20名)
活動場所：近江八幡市旧吉田家
代表者名：張 玲(人間文化学研究所)
関係団体：近江八幡市産業経済部商工観光課、財団法人ハートランド推進財団

近江八幡市の重要伝統的建造物群保存地区に隣接して建つ旧吉田家は、近代初期の建築で八幡商家に特徴的な部戸を残しています。部戸を2階まですり上げると前庭を開くことができます。この景観の特徴を活かした旧吉田家の保存・活用を試みるため実測を行い図面を作成してきました。旧吉田家は近江八幡市に寄贈されたものであり、公開を前提とした古民家再生の社会実験として古民家を保存・活用する新たな方法を探っています。



社会資本としての集住体プロジェクト

チーム名：ちーむ はっけい(10名)
活動場所：環境科学部松岡研究室、他は彦根市の集落
代表者名：笠嶋彩子(環境科学研究科)
関係団体：特になし

私たちは1999年結成より、社会資本としての集住体とは何かを考え活動してきました。その中で、本来集まって住むかたちの原型が集落にあるのではないかと考え、現在まで継続的に滋賀県彦根市にある集落の調査・分析を行い、一集落ごとに「集まって住むかたち」を探っています。また、総合的な視野で考え、現代の集まって住むかたちを理解する為にも期的な集住体や団地の見学・調査等の活動を行っています。

造形拠点の形成と展開プロジェクト

チーム名：エコキャンパスプロジェクト木楽部会(30名)
活動場所：滋賀県立大学内エコキャンパスセンター
代表者名：足立真由子(環境科学部)
関係団体：滋賀県立大学木匠塾、滋賀県立大学 Eco-Campus-Project 生き物部会、大滝山林組合

現在私たちは、滋賀県立大学に学生、教員及び地域住民の方々が自由に造形活動のできる、拠点を形成しようと奮闘しています。大学と地域が一体となり時代を過ごすことが理想となっている今、その具体的な活動場所を大学内に取り込みたい。その例として、蔵を学内に移築します。他には、地域の使われなくなったものを私たちの手によってつくりかえ、地域に還元します。自分たちでデザインし、つくる。そのおもしろさを大学の枠を超え分かち合いたいです。



造形拠点

竹林プロジェクト

チーム名：エコキャンパスプロジェクト 生き物部会(45名)
活動場所：大上川河辺林
代表者名：横川昌史(環境科学部環境生態学専攻)
関係団体：大上川を豊かにする会

大上川河辺林には貴重な植物が生育していますが、その生育環境は悪化しています。その原因の一つが竹林の荒廃です。そこで、この竹林を地域住民と一緒に管理しようというのが、このプロジェクトの目的です。現在は河辺林の植生調査、間伐した材による炭焼きなどを行っています。将来的に河辺林の環境が改善され、市民の憩いの場、学びの場とふれあう場になることが期待されます。



竹林



とよさと快蔵プロジェクト

チーム名：とよさと快蔵プロジェクト(34名)
活動場所：滋賀県大上郡豊郷町
代表者名：竹岡寛文(環境科学部)
関係団体：特定非営利活動法人とよさとまちづくり委員会

現在NPO法人とよさとまちづくり委員会と協働で古民家を改修して学生が共同生活するという事業を中心に活動しています。昨年の夏から毎週末に町の人々とコツコツ作業を進め、た物件が2005年3月に完成の予定で現在入居者募集中です。学生時代ならではの共同生活、きつと有意義なものになると思っています。また、町の祭りなどイベントに積極的に参加し、企画や運営に携わって町のとよさとふれあいが自らも楽しんで活動しています！



未来看護塾

市民および医療に携わる人々とのふれあいを通して志向する未来看護塾

チーム名：未来看護塾(53名)
活動場所：彦根市立病院、特定非営利活動法人NPOぽぽハウス、ぽぽクラブ
代表者名：鈴木絵事(人間看護学部)
関係団体：彦根市立病院、特定非営利活動法人NPOぽぽハウス

未来看護塾では、地域で生活している人々や医療現場で働く看護職の方々ボランティア活動を通して交流し、人々がとて生きていくその生き方を支える未来の看護のあり方を見出し、いくことを目的としています。具体的には、彦根市立病院における小児病棟での子どもたちの遊びや、緩和ケア病棟でのティザーサービス、ぽぽハウスにおける高齢者や子どもたちとの交流などを行っています。ミシガミ州立大学のダニエルキングさんも未来看護塾に参加しています。

地域アイデンティティ

チーム名：職人塾「上丹生」(47名)
活動場所：坂田郡米原町上丹生
代表者名：平井達也(人間文化学研究所)
関係団体：上丹生木彫組合

地域の人々との交流を通じて、ものづくり、ひとづくり、暮らし、風景、自然への真摯な眼差しをもったまちづくりを学ぶことを目的とした活動です。大学の授業でもあるフィールドワークや実習などのテーマ課題にとりあげ、さまざまな地元催事に参加しながら進めています。大学における文化論研究や、デザイン研究などの専門性を活かした地域連携を実践しています。



集住体

ビエンナーレ

BIWAKOビエンナーレ実行委員会

チーム名：BIWAKOビエンナーレ実行委員会(40名)
活動場所：近江八幡市街地
代表者名：東 尚史(環境科学部)
関係団体：BIWAKOビエンナーレ実行委員会

「まちをつむぐ」というコンセプトのもとに提唱された「BIWAKOビエンナーレ」は滋賀県内の様々な場所をアートの表現活動の場にみても、様々なジャンルのアーティストが市民や学生、ボランティアらを巻き込んで作品を生みだしていくという活動です。活動の特徴は、活動に参加した人がアートが生まれるまでのプロセスを実際に体験できるということです。この活動を通して、これに参加するすべての人と、活動が行われる地域が活気に満ちあふれたものとなることを願っています。



中山道コンシェルジュ養成プロジェクト

チーム名：C3(Community Concierge Consultant)(20名)
活動場所：高宮町、鳥居本町、豊郷町、愛知川町
代表者名：片上敏喜(人間文化学研究所)
関係団体：NPO近江中山道を楽しむ会

私たちC3の中山道コンシェルジュ(地域の魅力を「つなげる」人材)養成プロジェクトとして、コンシェルジュを中心とした連携と「ネットワーク化」を目的とした活動を行っています。現在は、中山道の宿町である鳥居本、高宮、豊郷、愛知川の各宿ごとの連携による中山道ネットワークの構築、中山道ブランドの確立に精進している日々で、宿町間を通して、食べ、見て、触れ合ってきました。人と地域の環境を「つなげる」、これが私たちの活動主軸です☆

コンシェルジュ

快蔵



Nio Project (内湖と調和した環境提案)

チーム名：Nio Project(48名)
活動場所：安土町・近江八幡における小中の湖、津田内湖干拓地およびその周辺
代表者名：越 聖民(環境科学研究所)
関係団体：津田内湖を考える市民会議

本現代GPプロジェクトにおけるNio Projectの主な活動および目的とは内湖と調和した環境の提案のための様々な基本データの収集を優先して活動を行っています。そのため現在、対象地域の植物調査や、集落調査を実施しています。集落調査においては現地調査や地図の変化による地域構造の変化の分析を行い、植物調査では現在まで調査した資料のまとめと、それを基とした分析を行っています。

内湖

活性化

吾川村下名地区地域活性化事業

チーム名：ドラマ下名(33名)
活動場所：高知県吾川村下名地区
代表者名：万野晶子(人間文化学部)
関係団体：高知県企画振興部地域づくり支援課

四国高知の山村、吾川村下名野川地区の廃校小学校を利用した地域コミュニティ拠点施設整備事業への参加活動です。地元住民との定期的な座談会やモニタリングツアーなどをかき、住民参加活動への知と体力の支援を行うことを目的としています。施設改築作業への協力やデザイン面でのソファの提案などを中心に進んでいます。完成後の施設運営への参加協力を視野に入れています。



信楽グランドデザイン調査開発事業

チーム名：マニフェスト信楽(16名)
活動場所：甲賀市信楽町
代表者名：給馬多美子(人間文化学部)
関係団体：信楽焼振興協議会

町村合併により甲賀市となった陶器産業の町、信楽町の最後の町史編纂といえる活動です。地元陶芸家と共に歴史と現状の調査ヒアリングを行い、戦前戦後の繁栄していた時期の生き証人からの口承、伝承をまとめています。地域産業の組織構造やまちの景観、自然環境、人々の暮らし、他の陶器産地との比較調査など、グランドデザインという広い言葉で、中長期目標を定めて活動を進めています。

信楽

仏壇デザイン

伝統創作仏壇デザイン開発事業

チーム名：彦根仏壇デザインチーム(27名)
活動場所：彦根市、その他
代表者名：松本樹(環境科学研究所)
関係団体：彦根仏壇事業協同組合

彦根の仏壇産業が地産産業として誇りをもった伝統産業として持続、継承していくための、次代の求めた新製品を開発することを目的とした活動です。仏壇製造に関わる7種類の職人職の匠の技を集結して総合芸術としての、彦根オリジナルの仏壇を目指しています。それら製品の地域性を一種ブランド化することで価値を高め、まちづくりとの連携を図ることを目標としています。

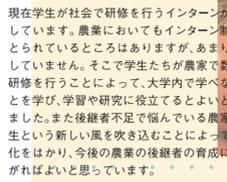


「土戸のある町家」の保存と活用

チーム名：七曲がり楽座(16名)
活動場所：彦根市田内家
代表者名：小野彰子(人間文化学研究所)
関係団体：NPO彦根景観フォーラム

田内家は彦根城下町外縁部の七曲がりという地区に位置しています。田内家は江戸後期の町家の特徴である土戸を残しています。本プロジェクトではこの土戸を貴重な景観構成要素として注目し、田内家の実測調査を行う基礎資料を作成してきました。これらの調査結果を元に田内家の保存・活用方法を、地域住民と共に模索していきます。今後は家屋内部の整備・復元を積み、具体的な活用方法の計画を策定中です。

土戸



農の現場

下関連新製品開発デザイン事業

チーム名：F.U.L.彦根(12名)
活動場所：彦根市
代表者名：岡治ナナミ(人間文化学部)
関係団体：彦根市縫製工業協同組合

近江地域における伝統地産である縫製繊維業活性化に向けた地域連携活動です。地元メーカーとの製品開発協力や消費者ニーズを探るための調査などを進めています。具体的な実践活動としては、今年行われる、よさこいソーラン祭り(札幌)や本家よさこい祭り(高知)における踊り子隊の衣装などを地元メーカーと共にデザイン検討を進めています。

製品開発